



(上) 2008年8月と12月にジャズの名門「ブルーノート・ニューヨーク」に出演(下)「Al Jarreau (アル・ジャロウ) & JAZZ FOR JAPAN ALLSTARS」の唯一の日本人メンバーとしてビルボードライブ東京に参加した

公演情報

西藤ヒロノブ New York Quartet
Milton Fletcher(p)、Marco Panascia(b)
John Lumpkin(ds)



日時 / 11月24日(日曜)
16時開演
場所 / 小林市文化会館大ホール
その他 / チケットの購入など、詳しくは文化会館(電話 23-7400 まで)お問い合わせください。

2002年、パークリー音楽大学ギター科を首席で卒業。全生徒を代表し、ジャズギタリストのピーター・バーンスタインと共演した



西藤ヒロノブさんの転機は、12年を周期に訪れる。12歳の初舞台。渡米した24歳。そして、36歳の時に起きた東日本大震災。数十回に及ぶチャリテイコンサートは、彼の音楽性に大きな影響を与えたという。あるチャリテイコンサート終了後に、被災者からかけられた「音楽を聴いている間は、全てのことを忘れられた。明日からまた頑張るって生きていける勇気をもたらった」という言葉が、

特に印象に残っている。「今までビジネスライクに考えていた部分が、より自分のしたい音楽や、どういう人と音楽をしていきたいかの方に目がいくようになった。そして、テクニクを追い求めることから、どういう意味を持って音楽をするか。リスナーに喜んでもらえるような音楽をしたい。」西藤さんがギターを始めたのは中学生の頃。「土曜夜市でも演奏しました。当時は、音楽の道を選ぶなん

て考えていなかった。」西藤さんは東京で就職したものの「やっぱりジャズをやりたい」と決意し、米国パークリー音楽大学へ進学した。大学を卒業後、プロのギタリストとして活動を開始。ジャズの名門「ブルーノート・ニューヨーク」や世界3大ジャズフェスティバル「モントレージャズフェスティバル」など多数出演。平成23年には、音楽評論家による「ミュージックペンクラブ音楽賞

スト・ニュー・アーティスト」を受賞するなど世界に認められる音楽家への仲間入りを果たした。11月24日には、3年ぶりに文化会館でコンサートを開催。「ジャズは歌ではなく、音の会話。即興などライブのその場の空気感でしか生まれたい瞬間を、耳、目、体で感じてほしい。」音楽家としての視野を広げ続ける西藤さん。彼の音楽に目の前で触れる日が待ち遠しくならない。

ライブは、音の会話のようなもの。その場の空気感でしか生まれたい瞬間を、耳、目、体で感じてほしい

ジャズ・ミュージシャン

西藤ヒロノブ

細野出身・
ニューヨーク在住

世界のジャズ・ミュージシャンが憧れるニューヨークを拠点に活躍を続ける西藤ヒロノブさん。「震災後、音楽に対する考えが変わった」。日本やアメリカなどで数十回に及び参加した東北復興支援チャリテイコンサートは、音楽の持つ力や、自分と音楽の向き合い方を考え直すきっかけとなった。日本を巡ったチャリティー・ツアー中にレコーディングした新アルバムも間もなくリリース。アルバムの制作を終えたばかりの彼に話を伺った。

